

梅毒蔓延論

全

059745-000-6

9-238

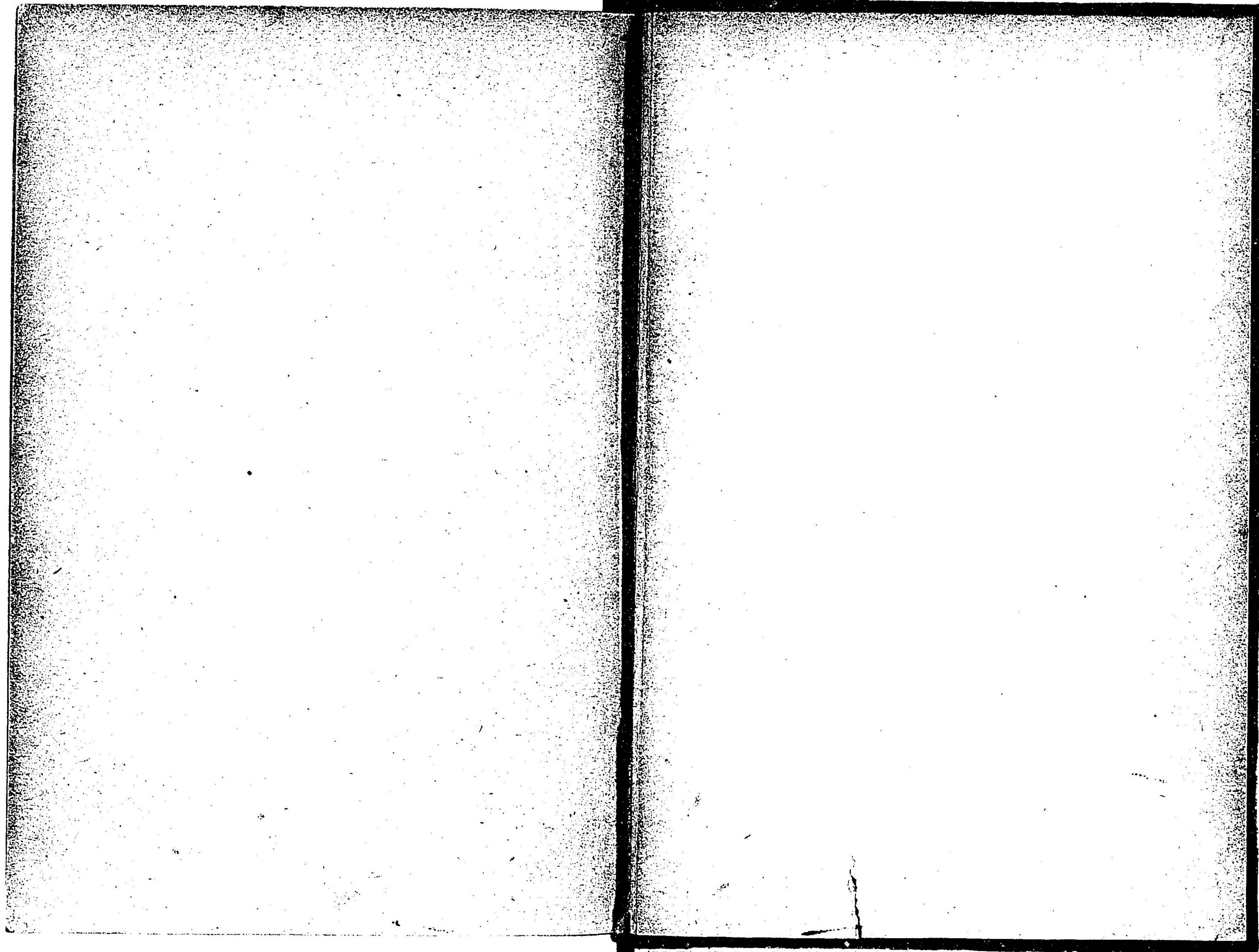
梅毒蔓延論

山根 正次/述

M27

CBH-0425





山根正次君口演

梅毒蔓延論

全

發行所 洲崎遊廓事務所

梅毒蔓延論

○奈此梅毒蔓延

(二十六年十二月大日本私立衛生會ニ於テ山根正次氏ノ演説)



諸君余ハ本席ニ於テ奈此梅毒蔓延ノ六字ヲ掲ゲ來リテ一場ノ演説ヲ試ミ諸君ノ清聴ヲ煩ハサントス
本題ニ入リテ先テ一言ヲ辨シ置カザルヲ得ザルコトアリ蓋梅毒ノ事ニ就テハ是迄本會ニ於テ頗ル研窮
スル所アリ已ニ其豫防法ニ就テハ以前討論題ニ出サレタルコトモアリ余モ本問題ニ就テハ客年仙臺ノ
本會總會ニ於テ聊カ鄙見ヲ述ベ其筆記ハ其頃ノ雜誌ニ掲載サレタルコトアリ兎ニ角此事ニ就テ會員ノ
意見考案ハ已ニ略盡スル如ク考ヘラルナリ、然ルニ今殊更ニ本題ヲ掲ゲ來リ諸君ノ清聴ヲ煩ハスニ
至リ別ニ新創ノ意見ト獨得ノ考案トアルニ於テハ兎モ角モ、否レハ重複無用徒ニ蛇足ノ謗ヲ買フニ
過ギザルベシ、余ハ實ニ新事實ト新理論ヲ發見シタルニアラズ唯平生ノ意見、更ニ丸出シニ言ヘハ世ニ
有リ觸レタル事實ト議論ヲ反覆スル迄ノ事ニテ重複蛇足ノ謗ハ余ニ於テ固ヨリ甘ンシテ辭セザル所ナ
リ、但余ヲシテ數多キ衛生上ノ問題ノ中ニ就テ此般ノ陳套平凡ナル問題ヲ撰マシメタルモノハ時勢ノ
必至已ム能ハザルノ致ス所ナリト云フノ外ナシ諸君幸ニ余ヲ以テ無用ノ辯ヲ好ムモノトナス勿レ

世ニ愛國愛民ト申ス語アリ世ニハ我ハ愛國ノ志士ナリトカ我ハ人民ヲ愛ストカ口癖ノ様ニ申スモノアリ、此愛國愛民家ト自稱スルモノガ果シテ眞ニ愛國ト愛民ノ名ニ負カザルヤ眞ニ其言フ所、説ク所ハ赤心誠意ヨリ出ルヤ否ヤハ余ノ知ル所コアラズ又余ノ言ヲ好マザル所ナレドモ、此愛國愛民家ガ目ノ着ク處ニ至テハ余ト甚ダ異ナルモノアリ何ゾヤ世ノ愛國愛民家テフモノハ國權ノ振張セザルヲ憤リ愛世家ハ民權ノ振起セザルヲ慷慨セルガ如シ固ヨリ余ト雖國權ノ擴張ト民權ノ振起ニ就テ異議ヲ挿ムモノコアラズ大賛成ノ方ナリ然レドモ國權ト民權トハ一足飛ニ擴張振起セラルベキモノニアラズ凡テ物事ニハ順序ト階段ナクテ協ハヌ次第ナリ國權モ民權モ實ハ此通則ノ外ニ出ル能ハザルハ勿論ナレバ國權ヲ張ルニモ民權ヲ盛ニスルニモ夫レ相當ノ順序階段ヲ要スルモノト知ルベシ此順序ト階段ト外ニシテ國權民權ヲ口ニスルハ恰カモ階梯ナクテ二階ニ上リ基礎ナクシテ家ヲ築クト一般ニシテ空論ニ終ラザルベカラズ余ハ今ノ國權論者民權論者ガ果シテ此順序ト階段ニ注意スルヤ否ヲ知ラザルナリ、切何チカ順序ト云ヒ階段ト云フヤ、民權ヲ起スニモ國權ヲ張ルニモ必首トシテ要スルモノハ一箇人ノ實力ナリ此實力ヲ充實シ満足セザル以上ハ國權モ民權モ名ノ上ノ空言ノミ諺ニ「力は權」ト云ヘルハ此謂ナリサテ何チカ實力ト云フカト問ヘハ實力ノ要素ハ智識ナリ金力ナリ徳義ナリ之ヲ集メテ種々ノ物モアルベシ人々ノ彙類ノ爲シ方ヨリ十人十種ノ彙類アルベシ左レドモ何人ト雖健康即ハ一國

民ノ体力テフ一件ダケハ之ヲ取去ル能ハザルベシ實ニ國ヲ組織スル其國民ノ健全ノ度ヨリ民權國權ノ程度ヲ表示セル者ト謂テ可ナリ、然レバ民權ヲ張ルニモ國權ヲ盛ニスルモ第一國民ノ体力ヲ保全發達セシムルヲ以テ第一義トナサハルベカラズ、是レ事物ノ順序ナリ、段階ナリ而シテ衛生ナルモノハ此國民ノ体力ヲ發達スルノ道ヲ指示スルト同時ニ体力ノ發達ヲ妨グルモノヲ排除スルノ方ヲ教ムルモノナルハ諸君ノ言フマデモナリ知了セラル、所也サテ此國民体力ノ發達ヲ妨害スルモノハ何カト云ハハ病氣ナリ、言ハデモ知レタル病氣ナリ其病氣ノ中ニ就テ何カ最人類ノ害ヲナスカト云ハハ傳染病ナルベシ一步ヲ進メ傳染病中何ノ病ガ最恐ルベキヤト問ハハ人或ハ虎列刺、痘瘡、赤痢ヲ以テ答ルモノモアラソナレドモ衛生學士ノ活眼ヲ以テ見レバ梅毒最甚シト申スナルベシ古來ノ歴史ヲ見レバ虎列刺ノ如キモ随分大害チ人間ニ與エ鉅萬ノ生命ヲ一時ノ間ニ奪了セル慘絶酷絶ノ事ナキニアラザルモ虎列刺ノ爲ニ國一人種ヲ擧テ滅亡シタリト謂フ例ハ未ダ聞カザル所ナリ然ルニ梅毒ニ至テハ之レニ異ナリ其害毒ハ暫時的ニアラズシテ永久的ナリ急激的ニアラズシテ漸進的ナリ其勢ニシテ停止スルナクハ遠ニ全國民ヲ腐敗シ全民種ヲ侵害シ亡國一般ノ慘狀ヲ露出スルニ至ル速クテハ布哇土民ノ如キ近クハ吾アイノ人種ノ如キ他ノ優性ナル人種ト生存競争上ニ失敗シ日ニ月ニ體格ヲ弱メ人口ヲ減ズルハ職トシテ應液質ノ疾病ノ爲メニ侵襲セラル、ニ是レヨル、世ニハらんぶ亡國論ヲ唱ヒタルモノ(肥後ノ僧佐田介

石)アリ余ハ今日ニ於テ梅毒亡國論ヲ唱道セントスル也夫レ梅毒ノ問題ハ衛生ノ重要ナル部分ニ屬シ
衛生ノ消長ト行否ハ全國民ノ實力ニ關スルトセハ苟クモ愛國憂世ノ志士ヲ以テ自ラ居ルモノ安ソフ梅
毒問題ヲ忽諸ニ附シテ可ナシムヤ、世人ハ梅毒問題ト云ヘハ一種忌ムベキ賤ムベキ議論ノ如ク思惟ス
ルモ梅毒患者其物コソ忌ムベク賤ムベクレ、其原因經歷ヲ論シ豫防撲滅ノ方ヲ講ズル如キハ當ニ忌ミ
且ツ嫌フベカラサルノミナラズ軍口進ソテ之ヲ稱賛スベキ理ナリ、余ハ諸君ガ我言ノ平凡無味ナルヲ
捨テズ題ノ卑猥瑣陋ナルヲ各メズ一聽ノ榮ヲ與ユラルベキヲ信ス

凡ソ梅毒問題ニ於テ普通ニ講究スベキ順序ハ先ツ第一ニ梅毒ノ性狀ヲ説キ次ニ其歴史來歴ヲ説キ其次
ニ現在ノ病勢ト將來ノ傾向ト説キ到リ最後ニ之ヲ撲滅シ豫防スルノ策ニ及ブハ議論ノ當然ノ順序ナリ、
若學理的ニ之ヲ講究セバ一部ノ梅毒論トモ稱スベキモノナリ然レドモ余ハ學理的ノ講義ヲナスハ此席
ニ於テ本意トスル所コアラズ且ツ梅毒ノ症狀歴史ニ就テハ先輩ノ講説アリ加フルニ諸君ノ知悉セラル
ベキ所ト考ルニ就キ之ヲ略シ偏ニ現下我國ニ於ケル該病ノ驚クベキ蔓延ノ徵アル所以ヲ明コシ之ガ豫
防策ヲ講ズルニ止ントス諸君幸ニ之ヲ諒セラレヨ

梅毒ノ原始ニ就テハ未ダ確然タル史蹟ノ徵スベキモノナシ尤醫學歴史ニ於テハ種々ノ説アレドモ信ヲ
措クニ足ラズ兎ニ角盛ニ行ハレ來リタルハ近代ノ事ナルト云フ事丈クハ一致セリ西洋ヨテハコロム

ブメガ亞米利加ヨリ土產トシテ持歸リタリト云ヒ、或ハ佛蘭西ノガル、王八世ノトキ發生ノタリト云
ヒ、又太古ヨリ存在セリト云ヒ種々ノ説アルモ是等ハ好古ノ歴史家ノ物好ニ一任シテ可ナリト考フ、
要スルニ近年ニ至リ層ノ速力ヲ以テ蔓延シ來リタリト云フコトハ事實アル、然ル原因ヲ尋ズル
ニ全ク文明開化ノ餘響アルト謂ハテハナラズ、文明開化ト言ヘバ至テ立派ニ聞エル然レドモ歐洲今
日マデノ文化ハ全ク物質的ノ文化ニシテ各人ノ能力ヲ自在ニ發達サセ優勝劣敗ノ天則ニ任セテ其成就
シタ結果ヲ名ケテ文明ト稱スルニ外ナラズ、故ニ強者ハ弱者ヲ凌ギ富者ハ貧者ヲ壓シ大ハ小ヲ倒シ長
ハ幼ヲ虐ル宛然此宇宙ヲ遠觀スレバ一種ノ修羅道ナリ、一個ノ戰場ナリ、而シテ此生存競争ノ裡ニ就キ
最甚シク且ツ最大切ナルハ貧富ノ戰爭ナリ貧富ノ懸隔ハ人口ノ増加ト器械ノ發明トニ基ク、人口増加
スレバ自然ニ食物ガ缺乏シテ其價ガ騰貴スル器械ノ發明ガアレバ自然ト人力ヲ節減シテ勞力者ノ需要
ヲ減少シ從テ勞力ノ價ヲ減ズル、是ニ至テ富者ハ益富ミテ貧者ハ益貧トナル從テ社會生計ノ度ヲ高
メ一般ノ貧乏人ハ活計ガ次第ニ困難ニ赴ク是等ノ事ハ經濟學ノ範圍内ニ屬スル事デ何人モ承知ノ事デ
アル、抑此文明ノ進歩ヨリシテ梅毒ノ蔓延ヲ盛ニスルハ何故ゾト考ルニ前ニ言フ如ク富者ハ富ルダケ
金ニ飽キテ榮耀ヲ爲ントスルモノナリ西洋人ハ表面上ニ於テコソ一夫一婦ノ制ヲ守レ事實ニ於テハ一
夫多婦ヲ實行シテ居ルコトハ爭ハレヌ事ナリ貧者ハ何如デアアルカト謂ヘバ貧人ハ矢張り生活程度ノ昇

騰ニ逐ハレテ非常ノ困難ニ陥ル其困難中最甚シキハ兩性結婚ノ困難ナル、男子ハ一定ノ年度ニ達ス
 ルモ妻子ヲ養フメケノ収入ナキカラハ結婚スル事ガ出來ヌ、可婚的年齡ニ達シテハ如終情慾ヲ抑壓ス
 ルト云フ事ハ聖人ト雖實際六ヶシキ事ナリ況ンヤ熊公八公等ニ於テチヤ、所謂木刀ヲ休メン爲メ自然
 不合法ノ情交ヲ行フト云フハ人性ニ於テ免ルベカラザルノ勢ナリ、物需要アレハ必供給者アルハ自然
 ノ勢ナリ況ンヤ女子タルモノモ男子ト同シク文明ノ潮流ニ漂サレ生活ノ困難ニ逐ハレ自然身体ノ一部
 ナ切賣シ一種變則ノ努力ヲ爲シ糊口ヲ營ムハ是レ亦必至ノ數ト云ハザルベカラズ是レ賣淫ノ文明社會
 ニ於テ次第ニ増加スル所以ナリ、固ヨリ賣淫ハ社會ノ成立ト殆ンド同時ニ世ニ行ハル、ハ賣淫史ガ證
 明スル所ニシテ疑ヲ容レズト雖文明ノ進歩ハ一層此惡風儀ヲ盛ニスルノ原因タルハ事實ニ於テ爭フ可
 ラザル事ナリ、此文明ト俱ニ併進スベキ衛生ト道德トハ比較的ニ他ノ社會的事物ト俱ニ進歩セズ從テ
 一般ノ風俗ハ大ニ亂レ惡毒ハ大ニ增長スル是レ乃ハチ文明開化ノ今日ニ於テ梅毒ノ蔓延スル所以ナリ、
 古來我國ニ於テ梅毒何如ナリシヤ固ヨリ粗末ノ統計表ヌラ之ナケレバ無論之ヲ證明スルコト能ハズ維
 新以前ニ在テモ隨分梅毒ノ流行シタルコトハ事實ナリサレバ古キ諺ニ「自惚と瘡氣のなほ者はない」ト
 云フ事アリ又々梅毒軍談テフ本アリ梅毒チ一種ノ魔王ニ比シ之ニ附屬スル淋病、便毒、内下疳、等ノ眷
 屬惡魔アリ藥軍ト戰爭スルト云フコト理想的ニ物シタル小説様ノ本ヲ見タル事アリ、是ニ由テ之ヲ

見レハ德川時代ニ於テモ該病ノ大ニ行レタ事ハ明ラカナリ、殊ニ當時醫學ノ幼稚衛生法ノ不完全ヨリ
 シテ此病毒ヲシテ蔓延セシメタルハ當時ニ於テ有り得ル事ナリシナラバ然レドモ之ヲ今日ニ比較スレ
 バ實ニ九牛ノ一毛ナリシナルベシ已ニ統計表ナシ其唯少イトカ多イトカ云フハ頗ル妄斷ノ言ニ似タリ
 ト雖當時社會ノ各員其處ヲ得テ貧富ノ懸隔甚シカラズ、各人ノ克己道德力ノ健全ナリシヲ見レバ今日
 ヲリハ賣淫少カリシナルベシ、已ニ賣淫少クレバ隨テ惡病少カリシコトヲ推測スルン得ベシ、然ルニ開
 國以來僅々三十年ヲ過ギザルニ驚クベキ患者ノ増進ヲ見ルハ是レ豈文明開化ノ賜ヨアラズトセシヤ
 余ハ之ヨリ何如ニ梅毒ガ速力ヲ以テ進ミツ、アルカヲ諸君ニ示サン
 余本年名古屋ノ公會總會ニ臨席シ岡山縣下ノ或一紳士(中川横太郎君)ニ邂逅シタリ此紳士ハ非常ノ衛
 生熱心家ニシテ世ノ衛生家ノ如ク之ヲ口ニ言フニ止メズ之ヲ實際ニ行ヒツ、アル奇特ノ人ナリ乃バチ
 醫師官吏ニアラザル身ヲ以テ數百里ノ道ヲ遠シトセズシテ總會ニ臨席セシ一事ヲ以テ見ルモ其熱心ノ
 度ハ推知シ得ラル、ナリ此紳士ヤ日々冷水浴ヲナシ毎朝小河ニ飛ビ込ミ如何ナル大寒嚴冬ニモ一日ダ
 ニ缺如シタルコトナシト云フ或ル日例ノ小河ニ浴シツ、アリシニ上流ヨリ見ルモ汚ハシキ一ノ膏藥ノ片
 ヲ流レ來ルヲ見タリキ餘リノ不思議ニ傍ヲ通行スル村ノ農夫ニ何故ニ斯ク清冽ナル河流ニ不潔ノ
 物ノ流レ來ルヤト問札シタルニ農夫ノ答ハ奇ニシテ且ツ時弊ニ切中シタリキ其言ニ曰ク近來自由ト稱

スルモノ村内ニ行ハレ村ノ青年子弟放蕩荒淫長上ノ教ヲ蔑侮シ爲ニ一種ノ惡疾ヲ醸シ村中ヲ擧テ殆ソ
 ド皆之ニ感染シ爲ニ惱ス所トナレリ是レ河流ニ膏藥ヲ看ル所以ナリト件ノ紳士ハ斯答ヲ聞キ呆レテ言
 モ出ザリシガ繼ニ農民ニ向テ自由——眞誠ノ自由テフモノハ斯ノ如キ放縱荒淫ヲ意味スルモノニアラ
 ズ全ク誤謬ノ觀念ナルヲ告ケ且ツ梅毒ノ恐ルベクテ豫防セザルベカラザル所以ヲ解キ諭シタリト
 語ラレタリ又同地ニ於テ病院ヲ見舞タルニ其日ノ外科患者七十七人中眞ノ梅毒十八人アルヲ發見シタ
 リ殊ニ驚クベキハ該患者中數人ノ僧侶、比丘尼アリタルコトナリ之ヲ院長ニ問ヘハ宗教家ニマテ此ノ
 羞ヅベキ病ニ罹ルモノハ決シテ珍シカラズト言フ天主教隆盛ノ時代ニ在リテ歷代ノ羅馬法王ガ大抵此
 病ニ苦シメラレタルコトナド思合スルトキハ左マデ不思議トスルコ足ラズト雖荷モ靈魂ト道德ヲ支配
 スベキ職務ヲ保ツモノコシテ道般ノ不体裁アリトスレバ今日社會道德ノ程度モ推測セラレテ浩歎ニ堪
 エザルナリ

又茲ニ梅毒ノ隆盛ヲ徵スベキ好箇ノ例アリ若シ人ニ問フニ日本第一ノ病院ハ何處カト問ハンカ、或者
 ハ答ルコ日本赤十字社病院ヲ以テスベシ否ザレハ醫科大學附屬醫院ヲ以テスベシ、否ザレハ順天堂ヲ
 以テスベシ何ゾ知ラシ日本第一ノ病院ハ此等ノ病院ニアラズシテ他コアルカ、現在大阪梅毒病院ニハ
 七百人ノ患者ヲ充實セルニ非ズヤ是實ニ他ノ病院ニ於テ類例ナキノ多數ナリ是レ亦タ梅毒ノ我國ニ於

タル過度ノ蔓延ヲ徵スベキ證據ナラズトセンヤ
 余ハ比年國內ニ於ケル梅毒増加ノ景況ヲ精密ニ知悉センコトヲ勉メタリト雖今日ニ於テハ精密ナル統
 計ノ徵スベキナシ先ツ余ガ力ノ及ブ丈ク蒐集シタル統計表ニ就テ余ガ所見ノ一斑ヲ證スベシ
 下ノ表ハ余ガ管理ニ係ル警視廳醫務部ヨリ各官廳ニ照會シテ蒐集シタルモノニ係ル尤次ノ東京府下各
 郡區ノ表ハ直接醫師ニ就テ得タルモノナリ此表タル統計學士ノ眼孔ヨリ見レバ不完全極ルモノト雖之
 ニ依リテ余ガ恐ルベシトスル花柳病ガ年ヲ追フテ蔓延旺盛ナルヲ證スルニ餘リアルベシ

各府縣花柳病患者表

病院數	明治二十四年			同二十五年			同二十六年上半年期			合計
	梅毒	軟下疳	淋病	梅毒	軟下疳	淋病	梅毒	軟下疳	淋病	
日本赤十字社病院	六五	四三	三八	七八	一八	三三	四三	五	一一	三三九
慈惠病院	一八三	四九	二七	一九三	二九	三三	七六	一八	一一	六〇九
蘇門病院	六五	二〇	八	七五	一五	九	四〇	八	五	二四四
赤十字梅毒病院	三四五	一四六	一三三	三一一	一〇七	一一一	一〇七	三三	四七	一八六
赤十字梅毒病院	二七	一六	一四	二二	一七	一七	一一	一一	一五	一六一
淺草病院	九三	八七	八五	一〇三	九〇	一〇六	五八	五〇	六〇	一六九
京都市官私立病院	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
合計	一一三九	四三三	三三九	一三三三	二二九	二四四	一一三	一一三	一一三	一一三

病院名	明治二十四年			同二十五年			同二十六年上半期			合計
	微毒	軟下疳	淋病計	微毒	軟下疳	淋病計	微毒	軟下疳	淋病計	
大坂府官私立病院	3,082	6,733	1,706	3,147	6,781	1,915	2,843	7,196	28,911	
神奈川縣官市私立病院	348	1,524	338	414	1,733	330	784	1,623	5,935	
兵庫縣官公私立病院	980	2,088	737	1,083	1,511	877	813	1,623	9,142	
長崎縣官公私立病院	700	861	606	711	706	711	398	1,200	5,506	
新潟縣公私立病院	2,075	1,139	1,955	2,293	1,398	1,466	1,331	817	3,904	
埼玉縣私立病院	1,509	604	533	1,666	651	511	830	311	6,851	
群馬縣私立病院	210	284	246	454	291	288	251	173	2,588	
千葉縣官私立病院	1,744	1,303	1,288	1,930	1,488	1,463	1,207	785	2,033	
茨城縣公私立病院及開業醫	776	420	584	927	505	583	502	309	4,994	
栃木縣官公私立病院	743	447	444	810	483	443	574	319	4,946	
奈良縣公私立病院	196	263	235	288	333	284	177	167	1,970	
三重縣公私立病院	246	71	135	305	105	273	186	53	1,469	
愛知縣官公私立病院	559	354	576	831	562	786	635	299	3,347	
靜岡縣官公私立病院	559	601	391	553	678	412	376	211	4,120	
山梨縣公私立病院	495	173	240	567	200	275	224	118	2,415	
滋賀縣官公私立病院	759	551	699	659	555	576	438	289	4,711	
岐阜縣官公私立病院	881	366	434	1,528	569	569	438	289	5,392	

病院名	明治二十四年			同二十五年			同二十六年上半期			合計
	微毒	軟下疳	淋病計	微毒	軟下疳	淋病計	微毒	軟下疳	淋病計	
長野縣官公私立病院	733	645	601	927	679	672	430	295	3,012	
宮城縣官公私立病院	562	300	319	614	280	298	410	233	3,273	
福島縣公私立病院	821	585	377	857	538	439	565	363	4,783	
岩手縣公私立病院	196	263	235	288	333	284	177	167	1,970	
青森縣公私立病院	483	286	497	1,099	364	587	655	117	2,671	
山形縣官公私立	395	269	368	456	270	388	540	190	2,353	
秋田縣公私立病院	749	225	388	786	270	366	540	190	2,353	
福井縣官公私立病院	200	311	262	220	355	264	136	111	883	
石川縣官公私立病院	849	666	982	1,081	777	837	533	375	2,088	
鳥取縣官公私立病院	328	333	160	268	207	208	221	156	1,809	
島根縣官公私立病院	697	246	247	644	154	197	335	108	2,735	
岡山縣公私立病院	206	243	236	228	257	262	89	78	1,567	
廣島縣官公私立病院	441	588	411	484	779	483	356	377	4,182	
山口縣私立病院	100	33	77	164	35	53	111	30	646	
和歌山縣官公私立病院	437	183	330	394	167	206	170	63	1,944	
香川縣公私立病院	847	592	390	1,129	632	406	544	368	5,266	
愛媛縣公私立病院	1,059	1,271	947	1,277	1,425	765	791	1,057	9,149	
高知縣私立病院	60	124	27	111	78	37	45	74	574	
福岡縣官公私立病院	496	333	363	574	196	393	36	127	2,633	

醫師數	明治二十四年				明治二十五年				合計
	梅毒	軟下疳	淋病	計	梅毒	軟下疳	淋病	計	
荏原郡	三八三	一七	一三	三五一	三三七	三三	四六	三〇六	三〇
北足立郡	三三六	二七	一三	三五七	四四三	三七	七九	五五九	六六五
南葛飾郡	二八〇	一〇〇	二九	三九九	三〇	四八	七九	一五七	四五一
南葛飾郡	一八三	一〇〇	二九	三一二	二〇	四八	七九	一五七	六五五
合計	三〇	六八七	六八二	一三八七	七二五	七三	七九	一五七	四二二六

以上ノ表ニヨリテ之ヲ見レバ我國ノ梅毒患者ハ驚クベキ増加チナシタリト斷言スルニ躊躇セザルベシ此増加ヨリ來ルベキ害惡弊禍ハ殆ンド枚擧スルニ由ナシ、一地方ニ暴風雨アリ數百人ノ溺死アリト聞ケバ忽チ救助金ヲ募集シ義捐金ヲ獎勵シテ大騒動ヲ致スモノアリ余トテモ這般ノ天災ニ救助金義捐金ヲナズハ固ヨリ之ヲ贊成スルニ吝ナラズト雖年々幾十万人ノ同胞兄弟ガ道徳ヲ腐敗シ天命ヲ滅縮スルノ大惡病ニ罹リ不幸ニ陥ル者アルヲハ之ヲ不問ニ附スルモノアルニ至テハ大小本末ノ別ヲ知ラザルモノト云ハザルヲ得ズ蓋害惡ノ急激ニ來ルモノハ假令其及ス所ハ少ナルモ人之ニ驚キ、害惡ノ漸徐ナルモノハ其結果重大ナルモ多クハ之ヲ忽コスルハ自然ノ人情ナルモ余ハ世ノ志士仁人忠君愛國家ヲ以テ自ラ任ズルノ人士ニシテ此眼前ニ横ハル大弊害ヲ實地ニ目撃シ嘗テ救濟防禦ノ術ヲ竭サルヲ見

テハ甚ダ以テ不審ニ耐ヘザル所也嗚呼是真個ノ志士仁人ノ處爲ト云フベキカ嗚呼是純乎タル忠君愛國ノ至衷ト云フベキ乎蓋梅毒ハ遊蕩ニ耽リタル上ノ句ノ果ニ出來ル病氣ナリ所謂自業自得ノ罪ナリ其眼潰ル、其鼻落ル其人自ラ諦ラムベシ他人一向關セズトノ趣意ナル乎、余ノ見ル所ヲ以テスレバ抑凡百ノ病氣十中ノ八九ハ大体其人ノ不養生ヨリ起ルカ、否レバ其所世ノ不養生ヨリ生ズル乎孰ニシテモ不養生ノ結果ニ外ナラズトス獨リ梅毒ノミ自業自得ト言フベカラズ、况ンヤ父祖ノ遺傳ヨリ來ルアリ、或ハ物体ノ間接媒介ニヨリ傳染スルアリ、一切ノ梅毒必シモ凡テ當人ガ遊蕩ノ果ト云フ可ラザルニ於テチャ、余ハ決シテ斯ノ如キ薄弱ナル理由ヲ以テ梅毒患者ヲ不問ニ附スルニ足ラザルヲ信ズルナリ、然ラバ此病氣タル元來慢性的頑固的ノモノニテ之ヲ根治滅除セントスルモ最早方法ナキヲ以テ之ヲ不問ニ附スルト謂フ乎、多クノ疾病中慢性的頑固的ノモノ少カラズ、獨リ梅毒ノミ不治慢性ノ症ニアラザル也况ンヤ根治撲滅ノ法未盡ナルモノアルニ於テチャ、之ヲ要スルニ今日我國人ガ此病ニ就テ冷淡ナルモノハ單ニ此病タル箇人ノ害惡ニ止リ他人及社會ニ向テ左マデ弊ヲ及ボスコトナシト妄斷セル誤想ニ基カズンバアラズ余ハ諸君ト俱ニ此俗論ヲ排撃シ以テ衛生ノ眞意ヲ明ニセザルベカラザル也余ハ此ニ至リ梅毒ノ社會人民ニ及ス害惡ノ一斑ヲ略説スルノ必要ヲ感ゼリ

梅毒ガ世ニ及ス害惡ナルニシテ足ラズ乃チ

患者自己ニ及ス害悪

他人ニ及ス害悪

家族血統ニ及ス害悪

社會上經濟上ニ及ス害悪

國民ノ元氣ニ及ス害悪

之ヲ五點ニ分チタルハ學理ニ照シタランニハ分類ノ方法其當チ得ザルカモ知ラザレドモ説明上ノ便宜
ヲ以テ上記ノ如ク之ヲ類別シタル也諸君之ヲ諒セヨ

患者自己ニ及ス害悪ハ何人ト雖之ヲ知ルベシ鼻落チ肉飛ビ毛髮抜カル之ガ外形ヲ見ルモ實ニ人間トシ
テ淺間シキモノナリ、去リナガラ此等ノ疾患ハ他ノ不幸零落ト同時ニ來ルモノナリ乃チかさかさハ放
蕩ノ結局、破産ノ成レノ果ニシテ其毒全身ニ發シ來ル是ニ於テ平人其病氣ニ注目スルノ度少キガ如シ、
且其病症タル多クハ慢性ニシテ俗人ヨリハ死亡者少キガ如ク感セラル、ガ故ニ人ノ戒心ヲ促スコト割
合ニ少シ、下ノ關地方ノ如キハ横迄ノ創痕ハ以テ恰モ東京ノ跡ノ如ク一種義俠勇肌ノ標徴ノ如ク思ヒ
ナスモノアリ故ニ瘡癩をやらぬ者は男でないトイフ格言ハ近來迄同地ノ下等社會ニ行ハレタリ實ニ
驚キ入タル嘶ニアラズヤ又近年與州地方ニ於テ梅毒ノ盛ナル地方ニ於テ之ニ類例シタル嘶アリ乃チ

其土地ノ老人ハ他人ニ向ツテ自家の息子はまだ瘡もよか、んと公言スト云ベリ斯ノ如キ地方ニ於テハ
梅毒ヲ以テ恰モ一箇ノ天命ノ如ク思フノミナラズ一ノ名譽ナル病氣ノ如ク信ジ居ルガ如シ、恰モ古ノ
武士ガ千軍萬馬ノ間ニ出入シテ受ケル手負傷ノ如ク思ヒ居ルガ如シ實ニ歎シキ次第ニ非ズヤ
一人ハ及ス害悪ハ先少愚者自己ノ業トシテ所謂自ラ成セル殃トシテ諦ラムルトシテ唯捨置キ難キハ
他人及其系統ニ及ス害悪ナリ之ヲ移植スルモノハ固ヨリ不屈至極ノモノナルモ之ヲ受ルモノニ在テハ
併テ罪ヲ問フベキナキアラズヤ、女郎買地獄買チシテ此毒ニ罹リタルモノハ致方ナシ然レドモ自ラ
知ラズシテ梅毒者ヲ夫ニ持チ或ハ親若ハ乳母ニ致シタルモノハ甚シキ不幸ト云ハザルベカラズ我國ニ
テ世俗ニ血筋ヲ慎重ニス、乃チ癩病ノ系統ハ成ルベク之ニ婚姻ヲ結ヌト云フ風習ガアル縱令千萬金
ヲ持參金アルモ小町衣通姫ノ美貌アルモ先方ニシテ癩病系統ノ疑アレバ結婚セザルノ風習アリ、此風
習ハ衛生上ヨリ云フモ結構ナル習慣ナリ然レドモ余ヲ以テ之ヲ見レバ何ゾ更ニ一步ヲ進メテ梅毒ニ及
ボササル、若シ養子ヲ貰ハノニモ、嫁ヲ取ラムニモ、彼ハ梅毒ニテハナキヤ、淋疾家ニハアラズヤト能
ク、詮索ヲ遂ク萬々斯ノ如キ危険ナキヲ見定メタル上結納モ祝儀モ濟ス様ニセンコトヲ欲ス、此事
タル今日ニ於テ行フベカラザルモ追々梅毒ノ蔓延ト一方ノ衛生ノ進歩ヨリ斯様ナル風習ヲ生ゼザルニ
モ限ルベカラズ已ニ今日ニ於テ肺患ノ如キハ大分詮索達チナスノ風トナリ來リタルニアラズヤ、衛生

的智識ノ缺乏セルモノハ梅毒ト云ヘハ單ニはねがらみカ若ハ鼻崩レカニ限ル如ク思ヘリト雖外表上ニ於テ全治セル如ク其實内部ニ病毒潜屈シ傳染力ヲ有シ居ルモノナリ余ハ婿嫁ノ取遣、乳母ノ撰擇ニ就テ將來梅毒性ノ有無テフ一事ヲ試驗ノ一條件ニ加ルノ日アラムコトヲ望ム

此ニ梅毒ノ蔓延ニ一ノ勢力ヲ加フル一事アリ、此事タル從來世人ガ餘リ度外ニ看過セル所ナリキ、何ツヤ素人療治ト宗教ノ迷信是ナリ、素人療治ハ患者ガ其患部ト惡疾ヲ世人ニ示スヲ耻ヅルト醫療ノ費用ヲ惜ムトノ二ノ原因ヨリ生ズルモノナリ從來坊間ニ行ハル、輕粉ノ如キ又ムすベ藥ノ如キハ皆劇烈ナル水銀劑ニテ爲ニ甚シキ水銀中毒ヲ起スコト多シ、斯ノ如キハ病ノ爲ニ害ヲ受ルモ却テ藥ノ爲ニ受ル害ヲ多シトス、宗教迷信ノ如キ今日ノ如キ文明世界ニ在テ珍トセズ、諸君ハ西國巡禮ヲ見タルナラハ、清正公參詣ヲ目シタルナラン、是等ハ神佛ノ効遙ニ藥石ニ優レリト妄信セルモノニテ管ニ自分一箇ニ不幸ヲ招クノミナラズ、亦他人ニ害ヲ與ルモノトス、若夫レ經濟上ニ及ス害ニ至テハ實ニ驚クベキモノアリ、是亦未統計ヲ以テ示スコトハ能ハザレドモ其大体ハ推測スルコトヲ得ベシ過日衆議院ニ於テ長谷川泰君ガ演說セラレタル所ニ依レバ二十二年中全國病人二千八百餘萬人ニシテ一人ノ治療日數ヲ二十日、一日ノ藥代ヲ十錢ト假定シテ物入總高五千七百四萬圓ナリト、此ノ推考ハ果シテ當ルカ否ヤハ知ラザレドモ大ナル違ハナカルベシト思フ扱此内ニ梅毒患者ガ何人アルカ嘗テ余ガ長崎病院ニ於テ調

タル結果ニ依レバ一箇年患者五千四百六十六人ニシテ内、花柳病患者四百五十四人アリ、即チ總患者中花柳病ハ八分強ニ當ル、之ヲ標準トシテ二十二年ノ總患者二千八百萬人ニ比例スレバ其内ニ二百〇四萬人ノ花柳病人アルノ理ナリ固ヨリ花柳病ト云ヘバ疝瘡モ淋疾モ消渴モ入テ居ル然レドモ先ヅ大体ヨリ云ヘバ之ヲ總合シタルモノトシテ可ナリ此二百〇四萬人ニ一日ノ藥代十錢トシ治療日數二十日ヲ入レバ總計四百〇八萬圓トナル是レガ吾日本人民ガ醫師ニ拂フ梅毒稅ニ非ズヤ實ニ膽ノ潰レタル話ニ非ズヤ、其他病ヨリ生ズル間接ノ費用ト損害ヲ加ヘタラバ大層ナルモノトナルベシ、名古屋ノ某病院ニ於ケル比例ハ乃チ外科患者七十七人中十八人ノ花柳病者アルノ比例ニヨリ計算シタランニハ非常ノ大數ヲ呈スヘシ然レドモ此等ハ破格ノ例トスルモ兎ニ角花柳病ガ凡テノ患者中大數ヲ占ルハ已ニ疑フベカラザル也

余ハ序ニ海陸軍ニ於ケル明治二十五年度ノ沃度加里ノ消費高ヲ示サン沃度加里ハ單ニ梅毒ノミニ用ルモノニアラザレドモ多クハ梅毒ニ用ヒラル、故其消費高ヲ以テ梅毒ノ増減ヲ推測シ得ベシ

海軍	陸軍	人員	藥價總計	沃度加里消費高
大凡九千七百四十七人	大凡六萬八千人	五千五百圓餘	千八百九圓餘	六萬ケラム餘
		貳萬貳千五百拾九圓餘	千七百圓餘	同上
				九萬五千ケラム餘

下志津原	横須賀	國府臺	高崎	佐倉	年									
					十	十一	十二	十三	十四					
15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	0
12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	0	0
11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	0	0	0
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	0	0	0	0
9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	0	0	0	0	0
8	7	6	5	4	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0
7	6	5	4	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
6	5	4	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	4	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

東 京	年				
	十	十一	十二	十三	十四
22	21	20	19	18	17
21	20	19	18	17	16
20	19	18	17	16	15
19	18	17	16	15	14
18	17	16	15	14	13
17	16	15	14	13	12
16	15	14	13	12	11
15	14	13	12	11	10
14	13	12	11	10	9
13	12	11	10	9	8
12	11	10	9	8	7
11	10	9	8	7	6
10	9	8	7	6	5
9	8	7	6	5	4
8	7	6	5	4	3
7	6	5	4	3	2
6	5	4	3	2	1
5	4	3	2	1	0
4	3	2	1	0	0
3	2	1	0	0	0
2	1	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0

陸軍省土地別愛憐病新患者表

其他石炭酸トカ昇乘トカ「ヨードホルム」等ヲ加ヘバ猶多カルベシ其損害タル實ニ莫大ト云フベシ次ニ國民ノ元氣ニ及ス患害ヲ説ク

嗚呼國民ノ元氣ノ燒熱ハ今何處ニカ在ル、昔時ハ武士ト稱スル階級ニアリタリ、然レドモ今日ハ士ノ常職ヲ解キ全國皆兵ノ主義ヲ實行サレツ、アリ夫レ然リ我國家ノ元氣士風ハ實ニ我海陸軍ニ在リト謂ハサル可ラス然ルニ海陸軍ノ狀勢ハ果シテ何如ンカアル

我輩ハ先ツ陸軍ニ就テ觀察セン下ノ表ハ明治十九年ヨリ同二十五年ニ至ル七年間ノ陸軍省土地別愛憐病ノ表ナリ此愛憐病中ニハ純粹ノ梅毒ニ止ラズ或ハ淋疾或ハ下疳トカノ病モ包含ス去レドモ淋疾ト云ヒ下疳ト云ヒ學問上ヨリ云フトキハ殊異コソアレ到底梅毒ノ系統ニ屬スルモノ之ヲ混合スルモ十分ニ海陸軍ノ衛生ノ墮落ヲ證明スルノ材料トナルヲ哀シム

沖	對	赤	福	小	熊
經	馬	關	岡	倉	本
二十三 年	二十十九 年	二十 年	二十 年	二十 年	二十 年
二 三 四 五	一 二 三 四 五	一 二 三 四 五	一 二 三 四 五	一 二 三 四 五	一 二 三 四 五
二	三	四	五	六	七
二	三	四	五	六	七
二	三	四	五	六	七
二	三	四	五	六	七
二	三	四	五	六	七
二	三	四	五	六	七
二	三	四	五	六	七
二	三	四	五	六	七
二	三	四	五	六	七
二	三	四	五	六	七
二	三	四	五	六	七
二	三	四	五	六	七
二	三	四	五	六	七
二	三	四	五	六	七

一五

九	松	廣	伏	
龜	山	島	見	
二十 年	二十 年	二十 年	二十 年	
二 三 四 五	一 二 三 四 五	一 二 三 四 五	一 二 三 四 五	
二	三	四	五	
二	三	四	五	
二	三	四	五	
二	三	四	五	
二	三	四	五	
二	三	四	五	
二	三	四	五	
二	三	四	五	
二	三	四	五	
二	三	四	五	
二	三	四	五	
二	三	四	五	
二	三	四	五	
二	三	四	五	
二	三	四	五	
二	三	四	五	
二	三	四	五	
二	三	四	五	
二	三	四	五	
二	三	四	五	

二四

淋症
軟下疳
橫痃
其他
硬下疳
梅毒
梅毒
梅毒
梅毒
其他

合計

新患者
兵千二百

合 計	淋 症		下 疳 症			梅 毒 症					合 計	兵 千 二 付 新 患 者
	軟下疳	横痃	其他	硬下疳	梅毒	粘膜炎	骨膜炎	其他				
二十五年	四二	一	一	一〇九	一〇七	一七九	五八	四七	六七	一九〇七	一五八	
二十四年	四二	一	一	一〇九	一〇七	一七九	五八	四七	六七	一九〇七	一五八	
二十三年	四二	一	一	一〇九	一〇七	一七九	五八	四七	六七	一九〇七	一五八	
二十二年	四二	一	一	一〇九	一〇七	一七九	五八	四七	六七	一九〇七	一五八	
二十一年	四二	一	一	一〇九	一〇七	一七九	五八	四七	六七	一九〇七	一五八	
二十年	四二	一	一	一〇九	一〇七	一七九	五八	四七	六七	一九〇七	一五八	
十九年	四二	一	一	一〇九	一〇七	一七九	五八	四七	六七	一九〇七	一五八	
十八年	四二	一	一	一〇九	一〇七	一七九	五八	四七	六七	一九〇七	一五八	
合 計	四二	一	一	一〇九	一〇七	一七九	五八	四七	六七	一九〇七	一五八	

(備考) 淋症トハ尿管加答兒同狹窄及淋性炎等ヲ云フ○表中函館ヲ省キタルハ二十四年青森へ引揚ケ當時屯在ナキヲ以テナリ

此表ニヨレバ各地一昂一低ヲ免レザルモ兎ニ角兵士ガ梅毒ニ罹ルモノ、多キハ一見シテ明了ナリ就中驚クベキハ大津兵營ノ兵ガ二十二年ニ於テ千分ノ百〇七強二十三年ニ於テ千分ノ百〇二強、伏見兵營ノ兵ガ二十二年ニ於テ千分ノ百五十七強ナドハ最驚クベキノ多數ニ非ズヤ

海軍ニ至テハ尙一層驚クベキモノアリ海軍中央衛生年報ニ依レバ左ノ表ヲ見ル

明治十六年	患者	兵員每千比例
同 十七年	三三七	六三、〇四
	三一六	五六、〇五

同 十八年	三七九	五四、七八
同 十九年	四三〇	五〇、七四
同 二十年	四八七	五三、四八
同 二十一年	五九三	六四、五七
同 二十二年	七七二	八六、二三
同 二十三年	八八八	九七、四五
同 二十四年	九四二	九二、一五
同 二十五年	一、〇八五	一一一、三二

余ノ聞ク所ニ依レバ佐世保鎮守府ニ於テ海軍兵五百人ノ診察ヲ行ヒタルニ四百餘人ノ花柳病者ヲ發見シタリト若シ之ヲシテ信然ナラシメバ更ラニ驚カザルヲ得ザル也

實ニ逐年増加ノ景況ヲ呈シ二十五年ニ於テハ千分ノ百十一強ヲ呈ス之ヲ陸軍ノ平均度千分ノ三十六ニ比ズレバ莫大ノ差ト云ハザルベカラズ殊ニ陸軍ハ淋疾ヲ包有シ海軍ハ表中ニ入り居ラザルヲ見レバ海軍ノ進歩——結構ニモナキ進歩ハ實ニ驚クベキニアラズヤ、蓋シ梅毒ハ山野ノ地ヨリ海邊ニ行ハル、モノナリ大坂ノ如キ西風ノ吹キ帆船ノ入ル毎ニ梅毒患者ヲ加フ去レバ自然海軍ノ陸軍ニ比シテ多數

ノ感受者夫出スハ怪ムニ足ラズト雖荷モ國威ヲ擴張シ國權ノ振起ニ注目スルモノハ之ガ防遏ノ策ヲ講
 ゼズシテ可ナラムヤ殊ニ海軍ノ梅毒ハ惡症ヲ以テ聞ユ夫ノ品川梅毒ト云フハ歐洲大陸ニテ英國梅毒ト
 云フガ如ク非常ニ難物惡症ヲ代表スル稱呼トナレリ然レドモ余ハ陸軍ガ海軍ニ比シ墮落ノ度甚シカラ
 ザルヲ許スモ竊ニ疑ヲ致サザルヲ得ザルモノアリ其故何ゾヤ皮膚梅毒ノ多キコト是ナリ皮膚梅毒トハ
 諸君ノ承知セラル、ガ如ク第二期ニ發スルモノニシテ隨分惡症ナリ此惡症多キヲ見レハ陸軍ニ於ケル
 梅毒蔓延ノ程度ハ單ニ此ニ止ルヤ竊ニ疑ヲ容レザルヲ得ザル也

江河ノ濁ルヤ其末ニ於テ濁ルニアラズシテ其源ニ於テ已ニ濁ルナリ樹木ノ枯ル、ヤ其枝葉ニ於テ枯ル
 、ニアラズ其根幹ニ於テ已ニ蝕蝕セラル、アルナリ余ハ單ニ陸海軍ニ於テノミ梅毒ノ蔓延ヲ喋々スル
 モノニ非ズ何シトナレバ此毒ノ發源ハ兵營艦船ノ外ニアレハ也、然レドモ今日ニ於テハ兵營艦船モ
 又病毒發源ノ源因タルコトヲ記セザル可ラズ、已ニ今日トナリテハ原因ハ結果トナリ又結果ハ原因ト
 ナリ兩々因果相應報シテ究極ニ達シタル也、實ニ兵士ノ風紀ヲ糺シ病毒ヲ民間ヨリ撤布驅除スルノ方
 ナキモノカ、聞ク我兵營ニ於テハ兵士ニシテ梅毒淋疾等ニ罹リタルモノハ之ヲ三等症トシテ日當チ引
 去ル規則ナリト是レ懲罰ノ一端トモナリスベキモ却テ彼等ヲシテ病氣ヲ隱蔽シ傳播ノ效ヲ盛ニスルノ
 結果トナラザル乎、聞ク所ニ依レバ營内ニテ兵士自ラ横法ヲ施術セント硝子片ヲ以テ患部ヲ切開シタ

ルモノアリシト獨乙國ナドニテハ兵士有病ノ兵士ニシテ交接シタルモノハ軍法ニヨリテ懲戒セラル、
 規則アリト是又豫防ノ一端ナラン以上ハ元氣ノ本部中心タル軍隊ニ附テ説ケリ兵士ヲ供給スル民間ハ
 如何ノ余ハ此ニ徵兵検査ノ表ヲ示サン

病類	不合格數	檢丁毎千 各病比例	不合格毎千 各病比例	病類	不合格數	檢丁毎千 各病比例	不合格毎千 各病比例
骨、筋系瘦弱甚之キモノ	一一〇	三二九	七六二七	視力之弱	九七	〇二八	六六六
惡性腫瘍	四六一	一三三	三二六	夜盲	四〇	〇一一	二七五
骨軟化、佝僂病	一九三	〇五五	一三二八	一眼若クハ兩眼失明	二九九	六八九	一六四六
骨慢性病	一〇四	〇三〇	七二四	耳殼若クハ鼻ノ全缺セルモノ	六六	〇一九	四三三
癩癩大ニシテ運動 ニ大ナル妨アルモノ	五三	〇一五	三五七	聾	三一九	〇九三	二二八九
象皮腫、癩	四六四	一三三	三二八	啞	四九〇	一四一	三三六三
動脈瘤	五九	〇一七	四〇	唇、齒牙、口内ノ疾病ニシテ 官能ニ大ナル妨アルモノ	六九二	一九九	四七、四九
癩癩	二二四	〇三五	八五一	食道狹窄	七	〇〇二	〇、四八
白痴	六〇六	一七四	四、五九	腎臓、腎盤ノ畸形ニシテ運 動ニ大ナル妨アルモノ	四三三	一二四	二九、六五
癩癩	一〇七	〇三一	七三四	胸廓畸形ノ大ナルモノ	二七	〇〇八	一、八五
癩癩	三〇	〇〇九	二五二	肺、胸膜ノ慢性病	一三三	〇三八	九、〇六
脊髓慢性病	二七〇	〇七七	一八五四	心、心囊ノ慢性病	一六	〇三三	七、九六
角膜炎、虹彩膜、網膜慢性諸病ニ シテ視力ニ大ナル妨アルモノ	九三	〇二七	六三八	腹内臟器ノ慢性病	八八	〇二五	六、〇四
近視							

病 類	不合格數	檢丁每千 各病比例	不合格每千 各病比例	病 類	不合格數	檢丁每千 各病比例	不合格每千 各病比例
歌兒尼亞	一九七五	五六七	一三五五	翻 足	二二八	〇六五	一五六五
支肢ノ短縮、彎曲、亡失	一三〇八	三八七	九二五	第一趾ヲ失ナルモノ若ハ 三趾以上ヲ失ナルモノ	九一	〇二六	六二五
關節畸形	一三〇四	三〇九	八三三	梅 毒	二九	〇〇八	一九九
習癖脱臼	一三三三	〇三八	九一三	其 他	一一〇	〇三三	八二三
指節ノ強剛ニシテ把握 ニ大ナル妨アルモノ 指若クハ示指若ハ二 指以上ヲ失シタルモノ	五八八	一六九	四〇三	合 計	一四七七一	四一八三	一〇〇〇〇〇
	二六八	〇七七	一八三九				

前ニ示シタル全國ノ表ニ就テ十分ニ明瞭ナルベシ即チ檢丁中無數ノ有毒者ヲ發見セリ、梅毒ノ外失明
眼病其他ノ諸症モ多クハ梅毒性ヨリ來リシモノナラン而シテ此有毒者ノ發見ハ年一年ニ増加シ來リテ
此勢ニシテ究極スルナシムハ兵隊ノ供給ハ全ク杜絶スル乎否レハ帝國ノ軍隊ハ全ク梅毒者ヲ以テ組織
スルノ孰レカ兩途ノ一ニ出ザルベカラザルニ至ルベシ今ヤ上下舉テ國防ノ急ニセザルベカラズ軍備ノ
擴張セザルベカラザルヲ説ク、然レドモ百ノ甲鐵艦アルモノ「シルツプ」砲アルモノ之ヲ運轉シ之ヲ使
用スルモノニシテ梅毒ニ苦惱シ厄弱其用ニ耐エザル人ニ向テハ有形ノ利器モナンカアラムヤ余ハ海陸
軍ノ擴張ニハ大賛成ナレドモ責テ是等ノ人々ガ其海陸軍大賛成ノ力ノ幾分ヲ割テ公衆衛生ノ事ニ注ギ
國家ノ元氣ト實力ヲ擴充スルノ法ヲ講ゼラレンコトヲ望ム也

以上説キタル所ニ依リ諸君ハ梅毒ノ恐レサルベカラザル事又其恐ルベキ病氣ガ如何ナル速度ヲ以テ我
全社會ヲ襲ヒツ、アル乎ト云フ事ヲ解セラレタルヲ信ズ是ヨリ之ヲ退治スル方法ニ就テ聊鄺見ヲ述
ト欲ス

凡ソ物ノ救治ヲナサントセバ其原因ヲ救治スルヲ必要ナリ、梅毒退治モ亦其通則ニ洩レズ先ヅ其原因
ヲ糺スヲ第一ノ務トス其原因ヲ分テハ種々アリ試ミニ見ヨ、道徳ノ頹敗、社會組織ノ不完全、衛生制
度ノ不備、重ナルモノ、ミナ以テスル尙斯ノ如シ此等ノ事情カラ生ズル第二ノ原因ハ例ノ賣淫ニテ此
賣淫ハ實ニ梅毒ヲ誘起シ來ル、固ヨリ物体ヨリ間接ニ來ル傳染ト先天カラ來ル梅毒トガアレドモ此二
ツハ稀有比例的極少キ方ニテ百中九十迄ハ不潔ノ交合ヨリ輸入ス、抑、梅毒ノ豫防ヲ講スルニ方リ一番
肝心ナルモノハ此賣淫問題ナリ賣淫問題即チ梅毒問題ト謂フモ不可ナシ賣淫ノ始末ニシテ附カン平、
梅毒ノ始末モ十ノ九マデハ附ケルモノトシテ可ナリ、然レバ余ノ問題ハ寧ロ此賣淫ノ蔓延ヲ如何セン
トスル方ガ一層適切ニアリシモ知レズ、賣淫ヲ如何セン此賣淫問題ハ實ニ識者ガ心ヲ苦メタル問題ナ
リ概シテ今日衛生學者間ノ輿論ハ公娼ヲ置クニ全會一致ヲ以テ歸着セリト云フモ不可ナシ廢娼論者
ノ如キハ人間ノ健康ト國家ノ富強トハ始ヨリ眼中ニ措カズシテ唯片眼の道徳ノ觀察ヲ以テ立論ノ基礎
ヲ立ルガ故ニ其悖理ニシテ實際ニ適セザルコト論ヲ須タズ、已ニ前年廢娼論熱度ノ騰上シタルトキハ

長谷川君、武君、其他ノ演説ニ依リテモ其非理ヲ知ル、余輩ハ此ニ蛇足ヲ添ルヲ欲セズ何トナレバ廢娼論ハ事實ノ上ニ失敗シタレバ敵ナキニ玉ヲ放ツト同一ナレバナリ、唯今日ニ於テハ公娼ハ如何ナル方法ノ下ニ監督スベキヤト云ル一問ノミ殘レルノミ扱此公娼監督ノ方法ニハ種々アリ森林太郎君ハ之ヲ聚娼監守ト散娼監守トニ分テラリ聚娼監守トハ二席ヲ畫シ其内ニ娼妓ヲ入レ置キ之ヲ監督スルヲニテ散娼監守トハ格別制限ヲ設ケズシテ之ヲ監守シ檢査ヲ實行スルノ謂ナリ、國ニヨリ聚娼監守ヲ行フモノモアレバ散娼監守ヲ行フモノモアリ亦兩ノ者ヲ折衷シタル如キ監守ヲ行ヒツ、アル國モアリ是ハ其國國ノ慣例ト事情ニヨリ定ル者ナレドモ今日我國ノ衛生學者ノ説ニ於テハ聚娼監守ノ方ヲ利トスル者多キガ如シ余ノ如キモ聚娼論ニ左袒スル者ナリ、而シテ我國ノ制度ハ聚娼監守ヲ行ヒ來レリ然レドモ我國ノ制度ヲ以テ全ク完全ナリト云フ可ラズ寧ロ弊害ノ改良スベキモノ多クアルヲ見ル、全國ノ首府タル此東京ニ附テ言フモ然リ、余ハ余ダケノ意見アリ而レドモ世ノ論者ノ稱説スル可成的娼妓ノ束縛ヲ寬ニシ正業ニ復スルノ便ヲ與ルコト檢査法ヲ嚴行スルコト檢査醫ヲ精選スルコトナレバ余ニ於テモ決シテ不當ニアラスト考ルナリ、今日ニ於テハ公娼ハ梅毒ノ防禦砲臺トナリ他ヨリ損害ヲ受ケ遂ニ廢娼論者ヲシテ公娼梅毒多キニアラズヤト呼バシム然レドモ是レ公娼ノ罪ニアラズ他ニ私娼多キガ爲客ニ感受セシメ其餘波ガ延テ公娼ニ及ビタルノミ之ヲ以テ決シテ公娼ノ缺點トス可ラザルノミナラ

ズ寧ロ公娼ノ必要ヲ反面的ヨリ證明スルモノナリ要スルニ世上一般ニ梅毒ノ蔓延スル以上ハ公娼ニ波及スル損害モ之ニ比例シテ一層大ナラザルヲ得ズ是ニ於テ平檢毒ノ必要及其施行ノ嚴密モ隨テ増加スベシ是レ檢査醫ノ益、其人ヲ得ザルベカラザル所以也、余本年某地ニ旅行シタルトキ其土地ノ驅微院ヲ訪ヘリ、此地タルヤ全國第二等ノ都會ニシテ娼妓ノ數モ多ク加ルニ有名ノ梅毒地ナリシ斯ノ如キ地方ニ在テハ當局者タルモノ宜ク檢査醫ヲ選ブニ其人ヲ精選スベキ筈ナルニ余ハ大ニ其豫想ノ當ラザルニ驚嘆シタリキ、何ツヤ該院ノ院長先生ト言ルハ今年七十七歳ナリシ、獨乙ノウイヒヨ一先生ハ今年七十一歳ニシテ猶ホ學界ニ雄視シ維也納ノピロートハ今年六十四五歳巴里ノバストーエルハ七十一歳テ醫壇ニ獨歩シツ、アルハ我國人ノ絶稱スル所ナリ余輩ハ年齢ノ老若ヲ以テ醫術其人ノ伎倆學識ヲ測ルヲ欲セズト雖七十七歳ノ老人ニシテ今日ノ日新ノ醫學的知識ヲ具有スベシトハ我國ノ事情ニ於テ殆シク疑ハザルヲ得ザル也、余ハ該院ヲ參觀シタルニ數人ノ外來患者アリキ余ハ問ヘリ、彼ハ如何ナル患者ナリヤト、先生曰ク淋疾ナリト余ハ實ニ驚ケリ驚キタルガ故ニ直チニ何故ニ入院セシメザルヤト問返セリ時ニ先生ハ落付拂テ曰ク輕症ナリ、輕症淋疾ナリト、是レ言語同斷ノ次第ニアラズヤ、輕症ニテモ重症ニテモ淋疾ハ淋疾ナリ傳染性ノ毒ヲ有スルハ一ナリ豈其輕重ヲ問フニ違アラシヤ然ルニ唯慢然輕症ナリトテ之ヲ入院セシメザルハ實ニ危險ニ非ズヤ斯ノ如キ院長先生ノ檢査ナラバ廢娼論者ガ檢

微ノ無效ヲ説クモ一理ナキニ非ザルベシ之ヲ要スルニ檢梅毒ト云ハハ醫師中一種賤ムベキモノ、如ク
 思惟シ學識アル人士ハ之ニ就クテ屑トセズ且其地位報酬ノ少額ナルヨリばる醫者ヲシテ之ニ充ルノ風
 アリテ自然此ニ至ルノミ醫師ノ職務ハ頭ノ尖ヨリ足ノ端マテ手ノ附カザル所ナシ豈其患部ノ高低汚否
 ナキ以テ醫師ヲ分限テ定ムベケムヤ、余輩ハ當局者ニ向テ檢梅毒ヲ薄遇スルノ非ナル所以ヲ論ズ併セテ
 醫師諸君ガ此職ヲ卑汚トセズ専心忠實ニ其務ヲ行ハシコトヲ希望ス如何ントナレバ檢梅毒ノ務タル公衆
 衛生ノ要務ニシテ其術、至貴至難通例ノばる醫ノ者容易ニ之ニ當ル能ハザル所ナレバ也

余ハ之ヨリ世人ガ梅毒豫防第二ノ策ト考ル私娼驅除ノ事ニ入ラム
 私娼ノ多キコト實ニ驚クベシ即チ明治二十四年來東京府下ニ於テ其處分セラレタル淫賣者ノ數ハ左ノ
 如シ

- 二十四年 千〇二十八
- 二十五年 千百六十八人
- 二十六年 一月ヨリ十一月三十日迄千三百十五人

是ハ單ニ逮捕ニ就テ處分サレタルモノニ限ル或人ノ説ニ依レバ東京府下ニ一萬人以上ノ私娼ハ確ニ之
 アルベシト云ヘリ府下ノ人口百三十一萬人アリトスレバ一萬人ニ就テ一人ノ割合ナリ餘リニ仰山ニ過

ルノ嫌アルモ兎ニ角四五千ノ私娼アルハ争フ可ラザルベシ而シテ此私娼ガ如何ニ梅毒ヲ含有スル乎
 ハ統計表ヲ以テ示ス能ハザルモ余ノ見ル所ニ依レバ百中九十九迄ハ有毒者ナルコトヲ斷言スル也、是
 迄其筋ニ於テハ私娼ハ嚴重ニ罰シタルモ罰金ノ能ク懲治シ得ル所ニ非ズ故ニ其情重キモノハ最重キニ
 從テ罰セラル、コト、ナリ其拘留ノ長キモノハ拘留處ニ置シテ監獄ニ送ル、監獄ニハ自體檢査ヲ致
 スノ規則アリ此自體檢査ヲ致ストキハ大抵梅毒若ハ淋疾ヲ發見セザルハナカリシト云フ、多クノ者ハ
 彼ヨリ診療ヲ要求ス而シテ其中ニハ陰部ニ甚シキ潰瘍ヲ起シ子宮鏡スラ受ル能ハザルモノアルニ至
 ル、斯ル難症ニ罹リナガラモ苦痛ヲ忍ビテ淺間シキ營業ヲナスニ至テハ殆ソド常情ヲ以テ思惟シ難シ、
 然ルニ拘留ハ長クモ十日ヲ超ユル能ハズ遂ニ病氣未治中ニ放免ス、此徒ニ對シテハ十日ノ拘留以テ懲
 罰ノ効ナシ、中ニハ中心悔悟シテ最早此罪惡ヲ再ビセズト決心スルモノモアルナルベシ然ルニ此族ニ
 ハ自ラ同類惡黨アリ犯者滿期出檻ノトキハ車ヲ以テ迎ニ來ル、而シテ非常ニ慰ル、而シテ御馳走ヲス
 ル、斯クナルト其情實ト義理——義理トテ反對ノ義理ニカラマレ再ビ國家ノ掟ヲ冒シ再犯ヲナスト云
 フ事アリ是ニ至テ實ニ憐ムベキモノナルヲ見ル、此類ノ巢窟ハ淺艸、神田、芝ヲ始メ今日ニモ至ル處ニ
 設ケタル、楊子店銘酒屋ハ殆ソド公然ト此犯罪ヲナシツ、アリ、加之市中ノ料理屋ノ下婢ハ準地獄ト云
 フモ可ナリ、其上等ニナルモノハ藝者アリ、藝者ト云ハハ其名稱可ナリ然レドモ彼女等ハ金箔付ノ地獄

ナルヲ如何ンセン、かき持ノ地獄ナルヲ如何ンセン今日ノ紳士若ハ先生トカ呼レルモノニシテ此差ッ
 ベキ病ニ罹リタルハ皆ナ右ノかき持ノ地獄ヨリシテ贈ラレタル土産ニ外ナラズ、此等ハ凡テ待合所ト
 稱スル暗澹タル式場ニ於テ授與セラレタル放埒ノ紀念章ナリ、今日ノ待合所ハ眞ニ梅毒製造所ナリ、若
 シ北里博士ノ如キ學者アリ梅毒豫防研究所ヲ設立サル、コトアラハ之ヲ待合所ニ設クルヲ便トセン、
 前年英國ノ一新聞ハ倫敦ニ於ケル醜穢ノ事實ヲ擧ゲテ之ヲ紙上ニ公ニシ爲ニ全英國ハ申スマデモナク
 世界ノ耳目ヲ驚シタリ若シ「ベルメル」新聞記者其人ノ如キ人アリテ今日我東京ノ暗黒界ニ入り裡面ニ
 埋伏セル事實ヲ探求シタラハ一層恐ルベキ差ッベキ事實ヲ發見スルナルベシ我東京諸新聞ノ記者ハ獨
 リ國權民權ヲ筆ニスルモ社會改良論ニ對シテ「ベルメル」新聞記者ノ如キ筆ナキ乎
 先年本會ニ於テ梅毒豫防策ヲ討論セラレタルコトアルニ方テ高論卓説紛出セシモ、要スルニ法律上ヨ
 リ教育上ヨリ經濟上ヨリノ三點ニ歸着シタリシガ如シ乃ハチ法律上ノ救済策トハ一方ニ於テハ密賣淫
 ヲ驅除スルト同時ニ一方ニ於テハ公娼ニ於テ善良ナル監督ヲ行フコト乃ハチ前述ノ事モ其内ニ含有ス
 而シテ此兩ノ者ハ警察ノ範圍内ニ屬スルモノトス、然レドモ賣色ニ關スル法律ハ我國ニ於テハ刑法第
 四百二十五條第十項ノ外ハ殆ンド絶無ト云フモ可、而シテ其取締方ハ東京ハ警視總監、地方ハ地方長官
 ニ委任セリ、隨テ地方ニヨリ取扱方ハ寬嚴區々タルヲ免レズ、或ル地方ニ在テハ娼妓ヲ公許スルアリ、

或ル地方ニ依リテハ群馬、佐賀ノ如ク廢娼ヲ行ヒツ、アル所アリ、或ル地方即チ石川ノ如キニ枚鑑札ノ
 制ヲ實施シツ、アル所アリ、隨テ警察ニモ寬嚴弛張ノ別アリ、即ハチ四日市地方ノ如ク良家ノ間ニ戸々
 娼家ノ點在セルアリ、又廣島ノ如ク非常ノ強硬手段ヲ執リ市中ノ藝者ヲモ悉皆游廓區域内へ驅リ込メ
 タルアリ、固ヨリ風俗警察ナルモノハ地方ノ人心ト事情ニヨリテ時ト處ニ隨ヒ或ハ寬ニスルコトモア
 ルベシ或ハ嚴ニスル事モアルベシ、或ハ干涉スベシ、或ハ放任スベシ、相當ノ手加減ヲ要スルコトハ余
 輩之ヲ知レリ然レドモ其大体ノ主義方針ニ至テハ一定シ置クノ必要ヲ見ル、如何ンドナレハ是レ幾分
 カ人權問題ニ關スルト同時ニ一國ノ道德ニ影響アレバナリ、今日密賣防禦ニ關スル法律ハ斯ノ如ク未
 十分完全ニ至ラズ、而ルニ獨リ之ヲ特ミ以テ滔々一瀉千里ノ勢ヲ以テ流レ來ル淫流荒潮ヲ防遏セント
 スルハ極メテ困難ナルヲ見ル、何ゾヤ彼等ガ事犯ヲ懲罰スルノ極刑ハ單ニ十日ノ拘留、壹圓九十五錢ノ
 科料ニ止ル、壹圓九十五錢ノ科料最下等ノ地獄ニ至テハ幾分カ苦痛ヲ感ズベキモ多額ノ金ヲ貪リ膏粱
 錦繡ニ飽キツ、アル、上等淫賣ニ至テハ毫モ苦痛ヲ感ゼザルベシ、乃至十日ノ拘留モ蒲柳脆弱ナル深窓
 ノ女ニハ屠處ノ羊ノ如キ感アルベキモ鐵面千枚「クルツ」砲モ突貫シ能ハザル莫連阿魔ニ於テ何ノ苦
 痛ヲ感ズベキヤ、百歩ヲ退キ彼等ニシテ十分ノ苦痛ヲ與ヘ其效驗アリトスルモ彼等ヲ取捕ルノ困難ヲ
 如何ンセンヤ、蓋密賣ノ事タル他ノ犯罪ト同カラズ、其犯罪タルヤ、秘密深闇ノ底ニ行ハ、ルガ故ニ之

ヲ發見スルヤ已ニ難シ、縱令之ヲ發見ゾルモ其舉證ヲナスコト甚ダ難シ、加之家宅ノ安固ハ憲法ニ明記セラレテ各人ノ城廓タリ、漫然警官ノ闖入ヲ容レズ、諸君ハ一時新聞紙上ニ現レタル山口藤六樓ノ件ヲ記スルナラン、彼レ巡査ハ健氣ニモ職權ヲ行ヘリ、然ルニ其行ヒタル職權ハ何ノ効ナキノミカ家宅侵入ノ廉ヲ以テ其職ヲ免セラレタルコアラズヤ、夫レ然リ先ツ今日ノ勢ニテハ何處迄モ何時ニテモ踏ミ込ミ家宅ヲ搜索シ犯人ヲ取押ル事ハ殆ンド望ム可ラズ、唯其外表ニ在リテ賣色スルモノ、ミ取押エラレ、而シテ夫ノ秘密深闇ニアリテ惡ムニキ醜業ヲ營ミツ、アルモノハ却テ其罪ヲ免ル、ノ狀アリ要スルニ比較的正直ノ者ハ罰セラレ狡猾ノ奴ハ免ル、事トナル若シ下等賣色者ヨリ言ハシムレバ以テ其筋ノ不公平トナサン、然レドモ是亦實ニ是非モナキ事ナリ、斯ノ如クナレバ私娼驅除ハ今日ニ於テ固ヨリ廢ス可ラザルモ其成功ノ點ヨリスレバ望ヲ措クベキモノニ非ズ、唯公娼監督ノ事ハ梅毒防遏上ニ於テ唯一ノ方便タルヲ失セザルノミ

夫レ法律上ノ救治左マテ望ヲ置クニ足ラズトセバ次ニ來ル教育上ノ救治ハ如何、是レ前ノ者即チ法律的防遏ヲ以テ局部療法トセバ後者ハ原因療法トスベシ、乃ハ梅毒ハ多ク密賣ヨリ來ル、而シテ其密賣ハ道德ノ頹敗ヨリ來ル、去レハ今一層道德風教ヲ起シタランニハ密賣ヲ減ズベク、密賣ニシテ減セバ梅毒減ズベシテ論理ヨリ割出シタルモノナリ、此說ハ實ニ結構ナリ、教育ハ一國ノ風教上ニ於テ益アル

モノナレドモ、一國ヲ化シテ聖人君子トナサザル以上ハ密賣ノ跡ヲ絶ツコト能ハズ、况ンヤ今日ノ如ク教育アルガ爲メニ却テ教育ナキモノヨリ一層品行ノモノサエアルニ於テチヤ、試ニ看ヨ教育ハ一年ト進歩シツ、アルニ非ズヤ、就學者ハ一年ト増加シツ、アルニ非ズヤ然ルニ梅毒患者ハ之ニ比例シテ減セザルノミナラズ年一年、層一層ト進歩シ來ルハ前ニ於テ證明シタル所ニ非ズヤ、是レ固ヨリ教育ノ方法當チ得ザルニヨル者アルベキモ、唯教育ニ頼テ密賣ノ蔓延ヲ制セントスルハ宇宙博愛ノ道理ヲ説キテ人類ノ間ニ行ハレ來レル戰爭ヲ廢止セントスルト一般迂濶モ極レリト云ハザルベカラズ、余ハ教育其物ガ風俗及ビ衛生ノ點ニ於テ大效アルヲ認メザルニ非ザルモ之ヲ以テ梅毒豫防ノ一策トシテ稱揚スルノ價值ナキヲ知ルナリ然レバ以上ノ二者共ニ其效ヲ望ムベカラズトセバ第三策即チ經濟上ノ救治策ニ依頼スルノ他アルベカラズ

余ハ演說ノ起首ニ於テ言ヘリ賣淫ハ社會組織ノ不完全ヨリ來ルコト多シ說ヲ換エテ之ヲ云ヘバ貧富ノ不平等ヨリ來ルコト多シト夫レ然リ其根源ニ溯リ經濟的ノ術策ヲ運ス寔ニ今日ノ急務ニ非ズヤ余斯ノ如ク聞ク海外語ヲ換テ言エバ巴里ノ賣女ハ其生活ノ程度ノ進歩ヨリシテ已ムナク、淺間シキ業ヲナスト、乃ハチ流行ノ衣服粧飾ノ代ニ窮シテ賣淫ヲナスト獨リ此ニ止ラズ一身ノ浮氣ヨリシテ自然此惡風ニ墮落スルモノアリト斯ノ如キ地獄ハ固道理ヨリ云フモ人情ヨリ云フモ眞ニ止ムヲ得ザル者ニ

アラズシテ其實止ムヲ得ルモノナリ、幸ニシテ日本ニ於テハ未其類例多カラズ、古來日本ノ娼妓即チ所謂浮川竹ニ身ヲ沈ムルモノハ多クハ親ノ人參ノ代ニ支ルトカ、或ハ主君ノ爲トカ云ヘリ、是ハ芝居ノ上ヲ見ル架空ノ事實ナリト雖兎ニ角浮氣榮耀ノ原因ニ依テ身ヲ沈ムル者ハ稀ナリシヲ疑ハズ、尤今日ニナリテハ所謂澆季ノ世トナリテ漸次浮氣榮耀ノ爲ニ斯ル醜業ヲ營ムモノナキヲ保シ難シ西洋ノ長所ヲ誘入スルト同時ニ其惡風弊俗モ亦之ニ隨伴スルハ免レザルモノ乎、然レドモ今日ノ狀態ヲ以テシテハ大抵其貧乏ニ源因スルモノ多キガ如シ已ニ貧乏ニ源因ス其源因ニ溯リ之ヲ救治スルニ如カズ嗚呼彼等ヲシテ衣ヲ得、食ヲ得、住處ヲ得テ安穩ニ生活ヲ得セシメタランニハ人誰カ甘シテ這般ノ厭フベキ羞ツベキ業ヲ營ムモノアラムヤ、然レバ之ヲ防禦センニハ先ツ貧民投産ノ方法ヲ授ケ女子手藝ヲ獎勵シタラバ如何ン、是モ教育ト同様頗ル迂遠ニシテ其效薄キガ如ク思ハル、蓋シ器械ノ發明ハ著シク勞力ノ價ヲ減シタルハ本世紀ノ現象ナリ、男子ト雖勞力ニ從事スルモノハ生活ノ困難ト賃金ノ不足ヲ訴フ況ンヤ力弱キ女子ニ於テチヤ、聞ク近來著シク發達シ女工ノ巢窟トシテ知ラレタル、紡績會社ノ如キ普通工女ノ賃金ハ十錢ニ上ラズト之ヨリ飯代ヲ拂ヒ積金ヲ引キ去ラバ餘ス所一モナカルベシ、況ンヤはんけちノ端縫、まのちノ箱ヲ張ル如キ汗ノ實ノ代モ得ラレザルベシ、若シ非常ノ烈女ナルカ或ハ容顏醜惡ノモノナラハ甘シテ此苦境ニ沈淪スベキモ、少シニテモ濫皮ノ劍ケタ奴ハ自然誘惑ノ移ス所トナリ資

本入ラズノ商賣ヲ始ムルニ至ルハ殆ソド免ルベカラズ、夫橫濱ノ製茶場ヲ見ズヤ工女中ノ美貌ナルモノハ決シテ焙茶ノ業ニ從事セズ坐シテ其同輩ニ數倍セル賃金ヲ得ルト云フ、彼等何チシテ此賃金ヲ得ルカ年少美貌ノ徒カ高價ノ賃金ヲ得テ醜貌老年ノ工女ハ二六時中齷齪トシテ働キ尙且彼等ノ十分ノ一モ得ル能ハズト是レ何ノ爲ツヤ、其他近來製造所工場等ニ醜聞ヲ傳エ且ツ其附近ニハ著シク私娼ノ増加スルヲ見レバ女子ニ工藝ヲ獎勵スルハ決シテ無二ノ良策ト謂フ可ラズ、況ンヤ女子ナルモノハ其本分ヨリ見ルモ、体格ヨリ見ルモ、勞力ニ從事スベキモノニ非ズ、其職務ハ家ヲ修メ兒ヲ養ヒ以テ男子ノ職ヲ補佐スルニ在リ殊ニ日本ノ如キ家族風ニ在テハ家内の小手藝ノ外女子ヲ驅テ大製造場、大工業場ノ如キ群衆中ニ入ル、ハ道德上生理上識者ノ一考ヲ催スベキ問題ナリト余輩ハ寧ロ女子ヲシテ工藝ニ就カシムルヨリモ其女子ノ父、兄、夫ノ如キ男性ヲシテ工藝ヲ習ハシムルノ安全且ツ利益アルヲ認ム

余ハ從來世ニ私娼防禦ノ手段トシテ稱セラル、法律上ノ防禦、教育上ノ防禦、經濟上ノ防禦ノ三點ニ就テ批評ヲ試ミタリ、此三者ハ孰レモ必用ハ必用ニ相違ナシ然レドモ法律上ノ防禦ヲ除却スレバ其方法ハ多少間接的ニシテ實際直接ニ其効少キヲ斷言シテ憚ラズ教育ノ擴張ト工藝ノ獎勵ハ固ヨリ之ヲ非認セザルノミナラズ余ハ前回ノ演說ニ於テモ之ヲ唱道シタリ然レドモ已ニ今日ノ如キ梅毒ガ非常ノ速力

ヲ以テ進歩シ來レル際ニ在リテ安然トシテ單ニ此般ノ迂遠ナル手段ノミヲ取ルハ迂遠ノ極點ト云ハザルベカラズ依テ余ハ其方策トシテ下ノ手段ヲ提供ス

(一) 今一層公娼檢査ノ制度ヲ嚴行スル事

(二) 私娼ノ取締ヲ嚴ニスル事

(三) 風俗感化院ヲ設立スル事

余ハ之ヲ機トシテ東京ニ於ケル檢査ノ方法ニ就テ余丈ノ意見ヲ吐露セザルヲ得ズ、東京ハ全國ノ首府ニテ萬事全國ニ超脱シテ進歩セリ、就中梅毒檢査ノ整頓セルコトハ全國第一等ナルベシ、是レ實ニ檢査醫其人ヲ得タルニ是由ル、余ハ余ガ主管ノ事業ナルヲ以テ我田ニ水ヲ引クニ非ズ實地ニ就テ取調アラハ諸君ハ余ノ言ノ欺カザルヲ驗セラルベキ也、扱其檢査方中最進歩シタルハ健康診斷ノ事トス健康診斷トハ娼妓ノ志願者アルトキ豫メ其健康ヲ診斷シテ是ハ果シテ營業ニ堪アルヤ否ヲ定ム而シテ其梅毒若ハ瘡瘡若ハ淋疾ニ罹ルモノハ之ヲ許サザルハ勿論ナリ、其他肺結核或ハ他ノ危險ノ病ニ罹ル疑アルモノモ亦許サズ

是ハ明治二十四年ノ末ヨリ實行スル所ナリ、扱此診斷ヲ行ヒタル上ニテ差支ナキト認メタル上ハ健康證書ヲ與ルナリ當人、抱主ハ此證書ヲ添付シテ營業ヲ出願ズ、此證書ナキモノニハ許可ヲ與フルコトナ

シ、已ニ許可セラレテ愈々其職業ニ就クトキハ再ビ新ニ診斷ヲ受ルノ成規アリ、新規開業ノ節ハ前後通シテ二回ノ診斷ヲ受ル精密嚴重ノ規定アリ、娼家ノ方ニ於テモ新妓ヲ抱入レルニハ此健康證書ノ下渡ト同時ニ身代金ヲ渡スト聞ク去レバ大金ヲ出シテ片輪者ヲ買ヒ込ミ實際ニ臨ミ役ニ立タズ大損チヌルト云フ如キ心配ハ全クナクナリ其道ノ營業者ハ利益ヲ感ツ、アリト云ヘリ而ルニ余ノ知ル所ヲ以テスレバ此般ノ健康診斷ハ未地方ニ於テ行レザルベシ、左スレバ自然東京ニ於テ落第シタル候補者ハ地方ノ遊廓ニ流レ込ム平若ハ地獄ニ陥ル平ト云フ結果ヲ來サザル乎ト聊カ心配ヲ抱ケリ、當路者ノ御注意ヲ要スル所ナリ、固ヨリ檢査ノ時ニ於テ疾患アリ落第シタルモノト雖能ク治療ヲ加ヘ全治ニ至リ營業ニ差支ナキモノハ再ビ前述ノ手續ヲ踐行シテ證書ヲ下付スル故營業者自身ニ取テ一向差支ナク、決シテ彼等ヲ駈テ地獄ニ趨カシムルト云フ如キ憂ハ之ナシ而シテ此健康診斷ノ成績ハ如何ント云フニ下ノ統計ヲ見レバ思半ニ過ギザルベシ

東京府下六遊廓娼妓出願者健康受檢數

年 別	受 檢 者	有 毒 者	受 檢 者 比 例
二十五年 中	一一二二九	二七一	二、七三
二十六年 上半期中	一一一三七	二九二	二、五八

前表ニ依レバ隨分落第者多シ是ハ近來娼妓ノ志願者ハ實際父母ノ爲若ハ一家ノ爲ニ依ルニ非ズシテ多クハ己ニ酌又ハだるまト稱スル密賣ヲ行ヒタルモノ多キニヨル、實ニ未通ノ處女ノ如キハ百人中一人モ居ザルベシ以テ社會ノ風儀大ニ紊亂セルコト、梅毒ノ大ニ蔓延セル事ヲ證據立得ベシ、又公娼ノ必要ナル所以ヲモ示シ得ベシ

東京ノ檢梅ハ前ノ如ク進歩セリ然レドモ余ハ之ヲ以テ完全トスルコト猶ハズ能ホ事情ノ轉化ニ從テ改正スルノ必要ヲ認メリ、余ガ現ニ改正スベキモノト信ズルハ梅毒病院ヲ警察ノ手ニ収ルコト是レナリ先年賄賂一件ヨリ梅毒病院ハ營業者ノ自治ニ一任セラレ吾警察ハ單ニ檢査ノ權ヲ有スルノミトナリタリ固ヨリ檢査ノ權サエ掌握セバ大丈夫ニ似タリト雖全体檢査ト治療トハ決シテ分ツベカラザルモノナリ、蓋病氣ヲ診察スルニハ其經過ヲ知ルノ必要アリ、殊ニ梅毒ノ如キハ檢査上六ケシキモノニテ萬一之ヲ誤ルトキハ無毒者ヲ有毒者トスルコトアリ有毒者ヲ無毒者トスル事アリ、若シ此ノ如キ事アラバ營業者ノ迷惑ト公衆ノ危險ハ果シテ如何ツヤ且醫員ニシテ營業人ヨリ俸給ヲ受ルトキハ多少掣肘セラル、所モアルベシ到底此制ハ改革セザルベカラザルヲ信ズ余ハ東京ノ檢梅法ノ卓絶ヲ誇ルト同時ニ其不完全ノ點ヲモ公言スルニ躊躇セザル也

私娼ノ取締ニ於テハ一層強硬的手段ヲ取ルコト勿論ナリ、余輩ハ夫ノ銘酒屋楊子屋ノ如キ下等賣淫ニ

止ラズシテ高等賣淫即チ待合及藝者ニ向テモ一層強硬ナラシムコトヲ希望ス而シテ又二枚鑑札ノ制ヲ行ハシムコトヲ望ム此制タル嘗テ十四五年前ノ頃今ノ上院議員榎村勇爵ガ京都ニ知事タリシトキ實行セラレタルコトアリ賀州金澤ノ如キハ今ニ二枚鑑札ヲ實施セリ、是レ實ニ良法ト云フベシ何トナレバ藝者ハ事實ニ於テ已ニ娼妓ナレバナリ、而シテ鑑札ハ名義ニ於テ其娼妓タルヲ認ルニ過ギズ、而シテ一方ニハ梅毒ノ傳染ヲ防シテ利アリテ一方ニハ風俗ヲ紊ルノ害ナシ一舉兩得ト云ハザルベカラズ、然レドモ之ヲ實施スルニハ本人ノ志願ニヨリシテ強制的ニ之ヲ實行スルヲ要ス

私娼ノ取締ヲ勵行スルニ就テ最必要ナルハ風俗感化院ナリ、余ガ本日ノ演題ニ於テ主眼トスルハ實ニ此感化院ヲ設立スルニ在リ、此感化院ハ前ニ所述シタル三個ノ方向ノ唯一方ニシテ偏セズ、三個ノ目的ヲ合一シテ設立スルモノ也國中ノ都府概シテ人口大凡一萬以上モアル地ニハ必之ヲ措クコト、スベシ該院ハ有志ノ設立トスルモ、自治區ノ支配トスルモ必警察官署ノ監督ノ下ニ措クヲ要ス、其組織ハ警部長若シハ土地ノ警察署長ヲ院長トシ之ニ參事員若干名ヲ附スベシ、而シテ其參事員ハ醫師、宗教家、議員、其他ノ篤志家等ヨリ成立セシムルヲ要ス、感化院ハ左ノ目的ヲ以テ設立セララルベシ

- (一)私娼ノ懲治
 - (二)私娼ノ療養
 - (三)私娼ノ授産
- 院内ニハ醫員、教誨師、工業師ノ三個ヲ置ク乃ハチ教誨師ハ諄々トシテ日ニ天理人道ヲ説キ彼ノ良心ヲ

啓發シテ麻吐ヲ知ラシムベシ醫員ハ彼等ノ惡疾ヲ治療シ其健全ヲ復スルヲ勉ムベシ工業師ハ彼等ニ手工ヲ授ケ自治ノ道ヲ教ユベシ、然ルトキハ如何ニ鐵而皮ノ女ト雖之ニ感化サレザルハアラザルベシ、入院者貧民ニシテ資力ヲ自辨スル能ハザルモノハ院費ヲ以テ之ヲ給シ、資力アルモノヨリハ之ヲ徴スベシ、而シテ其手工製作ヨリ生ズル賣上高及ビ賃金ハ之ヲ儲蓄シ他日、本人出院ノトキ生活ノ費用トシテ之ヲ渡スベシ（其幾分ハ院費ニ繰込ムモ不可ナケレドモ實際其高ハ僅少ナルベケレハ寧ロ悉皆之ヲ給與スル方入院者ヲ獎勵シ其感化ヲ速ニスルノ効アラム）

其感化方法ハ擧テ之ヲ篤志者ニ一任スベシ、扱此院ニ入ラシムルモノハ悉皆ノ私娼ヲ入ラシムルニ非ズ再三再四之ヲ懲罰スルモ嘗テ其惡行ヲ悛メズ改善ノ見込ナキモノヲ擇ミ之ヲ入ラシムベシ其認定ハ單ニ警察官ニ一任セズシテ感化院參事員ノ評決ニ附スベシ本院ハ半ハ慈惠院ノ性質ヲ帶ヒ半ハ懲治檻ノ性質ヲ帶ルモノナレハ何人ニテモ一ニ此院ニ入リタルモノハ名譽ノ死刑ヲ受ケタルニ均シク社會ニ出タルトキ頭ガ上ラズ面ガ出サレズト云フ事ニ至ルカモ知ル可ラズ、且ツ社會ニ在リテ浮氣我儘ヲナシタルモノガ一旦此狹少窻窟ナル範圍内ニ入ラム乎、或ハ鬱憂變狂又ハ甚シキニ至ルト自殺ヲ企テザルニモ限ラズ、故ニ風俗感化院ハ入院者ノ待遇ニ注意スルト同時ニ入院手續ニ就テハ最注意スルヲ要ス萬一組織ト實行ノ手續ニシテ宜キヲ得ズシテ明リニ入院ヲ強ルコトアラム乎、是地獄ヲ地獄ニ陥ル

ノ結果トナルベシ以上ハ余ガ風俗感化院ニ對スル組織意見ノ大略ナリ、而シテ此院ヲ設立スルノ費用ハ如何シテ可ナルカ是次テ起ル問題ナリ、余ハ第一ニ之ヲ賦金ヨリ支辨センコトヲ首唱ス、若其賦金ナキカ又ハ其金高不足ノ地方ニ在テハ如何ニスベキ地方税中ヨリ之ヲ補助シ且之ニ加ルニ有志ノ義捐金ヲ以テセンコトヲ望ム、抑夫ノ賦金ナルモノハ何ゾヤ元來公娼及ビ貸座敷ヨリ取立ルモノナリ之ヲ以テ此類ノ費用ニ支拂フハ寧ロ理ニ適スベキノミ先年東京府會ノ某氏ハ賦金ノ如キ汚レタル金ヲ取立ルハ差ツベキコトデアアルト明言シ夫カラ吉原其他ノ賦金ガ大ニ輕減セラレタ、其ガ爲賄賂事件テフ問題ガ起リテ一時法廷ヲ煩シタルコトアリキ、兎ニ角今日ニ在テモ東京一府ニテ六萬三千四百六拾壹圓余リアル、皆檢梅費トシテ支出スルモノハ僅ニ四千三百圓位ニ過ギズ殘リ五萬圓餘ハ雜收入トシテ地方税ニ組入ル、之ニ加ルニ有志ノ義捐金ヲ以テス之ハ十分ニ立派ナ感化院ガ出來ルト考ル、余輩ハ先ヅ東京ニ一ノ感化院ヲ設ケ他ノ模範トシ又試驗トシ愈、其有効ヲ認タル以上ハ全國ノ大都府ニ之ヲ設ケタキ覺悟ナリ扱之ヲ實行スルハ如何ト云フニ幾分カ人ノ自由ヲ束縛スルモノデアアルカラ行政處分ノミニテハ託スルヲ得ズ、恐シハ法律トシテ發布セザルヲ得ザルベシ、余ハ法律ヲ以テ業トスルモノニアラズ未其點マデ研究ハ行届カザレド、要スルニ此感化院ヲ成立セシメンコトヲ欲スルニ熱心スルモノナリ、余ハ諸君ガ此點ニ就テ御研究アレンコトヲ望ム………（大喝采）

明治廿七年四月十五日發行

明治廿七年四月十五日發行

定價金二拾錢

四八

編輯者

中 嶋 貫 一

深川區洲崎辨天町十八番地

印刷者

宮 本 敦

神田區小川町一番地

印刷所

愛 善 社

神田區小川町一番地

發行所

洲崎遊廓事務所

東京市深川區洲崎辨天町十八番地

9
138

